

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072200423		
法人名	有限会社ツーウェイ・ヒューマンゼーション		
事業所名	グループホーム 和笑		
所在地	福岡県朝倉市長谷山393-10		
自己評価作成日	平成26年3月11日	評価結果確定日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 [http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true&PrefCd=40](http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=40)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成26年3月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「和笑」のまわりは田園に囲まれているものの近くに秋月城や目鏡橋もあり、散歩等を通して自然や四季を肌で感じとる事ができる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

秋月城や眼鏡橋など観光客も訪れる自然豊かな秋月の城下町において「グループホーム和笑」は今年で開設から10年目を迎える。当施設は、代表が長年の夢としていた、高齢者のその人らしい暮らしを実現するものとして、地道な取り組みが結実したもので、最終的には住み慣れた朝倉の地での開設につながった。「和みのなかで笑みに包まれて」という意味を込めて「和笑」と名付けられ、その名の通り、調査時にも入居者と職員の明るい笑い声で施設は包まれている。敷地内には宅老所とデイサービスが隣接して建てられており、慣れた土地を離れず、介護を提供できるように一体的に運営されている。四季折々の移り変わりを間近に感じられ、入居者も職員も一つの家族のように和やかに会話やレクを楽しみながら生活されている。これからも、理想とする介護の実現を目指して、益々の発展が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有できるよう理念をわかりやすく覚えやすいものに変更した。	理念は創業時に作られたものから、わかりやすく馴染み深いものになるように、職員で話し合って発展的に作り変えられ、玄関や至る所に掲示されている。以前申し送り時にも唱和しており、職員の中でも共有されている。「和笑」の名前に込められた思いも取り入れており、ケアでの実践につなげている。	以前されていた唱和によって共有が進んでいるが、改めて理念を振り返る機会を作ること、具体的な行動につながることを期待される。行動指針の作成や、実践的な目標設定などを話し合われてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来てない。地域行事のうち参加しやすい空き缶拾いや不燃物などの手伝いをとの思いはあるが実践できていない。	地域でも元からの知り合いも多く、日常的に挨拶を交わすことや意見を頂くこともある。地域ボランティアに来てもらったり、保育園の慰問や、小中学校からの音楽発表や職場体験の受入なども行っている。野菜の差し入れを頂くこともあり、地域の情報は回覧板で回ってきている。以前は長谷山地区の空き缶拾いにも参加をしていた。	以前行っていた清掃活動や地域行事の参加がなされることを望まれる。また、公民館で企画していた夏祭りなどの実現に向けた取組みが再びなされることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や訪問しての相談に応じているだけである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での助言等は有難く受けている。	会議は2ヶ月毎に開かれ、区長、老人会長、社協、民生委員、市職員、家族代表と幅広い立場から参加されている。年間でテーマを定めて、行事報告の他、認知症についての勉強会などを行ったり、敬老会やクリスマス会と一緒に開催したりして変化をもたせている。リビングで行うことで入居者も参加でき、外部評価結果も活用して話し合われていた。	会場の都合上、家族は代表のみの参加だが、取組を知ってもらうために、議事録の報告を行ってはどうだろうか。また地域包括への案内もすることで、さらに発展的な運営がなされることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的とは言えないが協議会時等に尋ねたり、相談したり情報を頂いたりしている。	困ったことや聞きたいことなどある時は、市役所の担当課にすぐに電話して相談し、対応してもらっている。運営推進会議にも毎回参加してもらい、やりとりする機会が多い。地域包括の窓口も隣接しており、同じように相談しやすい関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り等を十分行う事で拘束はしていない。	一切の拘束をしない方針で、玄関も施錠していない。以前、宅老所であった離設を踏まえて、見守りも強化し、地域とも連携体制を築いており、何かあれば連絡が入るように依頼している。帰宅願望の強い方にも見守りに対応し、本人に配慮して遠目での対応も行う。転落防止のため一部ベッド柵を利用するケースがある。	転落事故防止のために、夜間のみベッド柵を利用するケースがあるが、代替案や解消に向けた話し合いが行われることが望まれる。また、スピーチロックなど全体的な拘束の理解につなげるための継続した研修や学習が行われることにも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃からの会話等からも変化を感じとったり、入浴時にも身体観察を行っている。		

H25自己・外部評価表(GH和笑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市職員に協議会時や出向いた時に相談したりパンフレットを頂いたり活用した。	今までに制度を利用した方はいなかったが、以前、利用を検討したケースで民生委員や地域の関連団体と協力して学習をしたことがあった。成年後見制度のパンフレットや資料の準備もされている。機会がある時は市の外部研修などにも参加しているが、昨年の参加はなかった。	事業所全体での理解を深めていくために、継続的な勉強会や、他事業所とも共同した研修会などが開かれることにも期待したい。また、日常生活自立支援事業に関してのパンフレットや資料が準備されることも望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書の説明を読み合わせをしながら実施しその都度不安や疑問に答えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	十分できていない。	家族とは面会時に状況報告を行い、意見もその際に聞き取っている。意見のあった時は職員にも伝達して話し合う。行事に家族に参加してもらうこともあり、以前は家族会も行っており、現在も計画中である。遠方の家族には手紙を出すこともあり、「和笑だより」を2ヶ月毎に発行して行事の様子なども伝えている。	家族や利用者からの意見をさらに引き出ししていくために、満足度調査やアンケート、意見箱の活用の見直しなどの検討が望まれる。また、面会の機会などをうまく活用した意見の掘り起こしが行われることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中ではどうしてもケアに関することが多くなりがちである。	毎月のスタッフ会議には全員が参加し、利用者の状態、状況に関して話し合われる。職員それぞれの意見が出され、ヒヤリハットに関してのヒアリングもある。管理者も現場に入っており、日頃から話しやすい雰囲気が作られ、要望によって備品の手配などにも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日曜日出勤手当を設けたり就労中の行いで良いと思ったことは伝え向上心を持ってほしいと願っているが努力が足りない反省もある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	希望として抱くものはあるが性別にしても年齢にしても特に制限していることはない。	職員は20～70歳代と幅広いが、お互いに意見などを出し合ってコミュニケーションが図られている。シフト希望なども相談して協力し合って調整する。それぞれの能力や経験を活かしながらレクや手作業などに取り組まれている。	職員全体のスキルアップのために、継続した職員教育の仕組みや勉強会などの機会が作られることが望まれる。また、ケアと休憩のメリハリのついた労働環境が目指されることにも期待したい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	たまにチラシ等を利用し伝えるのみである。	市役所においているチラシなどの資料を活用して人権教育に活かしている。認知症の実践者研修にも参加し、取組につなげている。	人権の関連団体などを活用した研修や、資料貸出しによって事業所全体での人権教育、啓発活動が行われていくことにも期待したい。

H25自己・外部評価表(GH和笑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護事業者協議会が計画するセミナー等の出席を呼びかけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	向上してほしいと願いつつ努力ができていない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族等より訴えを聞いて不安・要望等の把握・改善に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との頻回な連絡や会話等にて不安等を把握して改善に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは受けたことがない。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には冗談を言ったり、対等の立場で話したりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも面会や外出をお願いしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思いはあるが、出来ていない。	本人の思いを汲み取って、代わりに連絡をしたり、家族とのやりとりを支援することもある。知人や友人に対しても家族を通して来訪してもらうこともある。住み慣れた自宅周辺に連れ立ってドライブで行ったり、人によっては一時帰宅や外泊支援も行っている。	

H25自己・外部評価表(GH和笑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で出来るような体操、レクをしたりスタッフが仲を取り持つ声かけ等行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	TEL等にて状況把握を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情観察や声かけ等にて把握に努めている。	主にケアマネジャーが担当し、入居時に基本情報の聞き取りを行う。プランの見直し時にケアチェック表を使った身体状況の把握も行い、日頃現場から挙がった情報は業務日誌や報告によって反映させる。入居者の言葉や行動をどのように受け止めるか、職員全体で共有して、表情の変化などをつぶさに観察している。入浴時のマンツーマンでのコミュニケーションなども意向の把握に活かしている。	長年利用されることによる情報の変化に対応するために、定期的なアセスメントや、認定調査情報の情報照会、基本情報の取り直しが行われることが望まれる。また、日々の情報を反映させるためにセンター方式の活用を検討されてみてはどうだろうか。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に引き続き、入所後も情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察や申し送り等にて努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度の報告や申し送り、月1回の職員会議にて意見を取り込んでいる。	家族との面会時に状況報告を行い、聞き取った情報は申し送りノートで共有している。モニタリングは毎月行い、プランの見直しは3ヶ月ごとの定期や随時にもしている。毎月のカンファレンスでは全員の情報を職員で話し合い、プランも全体で共有している。日々の実施記録とプランは同じカーデックスにファイリングしており、プランと連動した記録が取れるように管理されている。	担当者会議に家族や看護師、PTや医師などの専門家の意見も反映させてはどうだろうか。また、意見照会を行った時の記録も管理されることが望まれる。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表や業務日誌に記録して皆で共有している。		

H25自己・外部評価表(GH和笑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日、その日の状態等に応じて対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分できていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、内科はホーム連携医に変更して頂いているが、他はFa希望も可。	希望するかかりつけ医を続けることもできるが、基本的には往診対応出来る医師を利用してもらい、現在では全員が提携医を主治医としている。往診が2週に1回あり、通院も事業所が支援する。看護師が常駐して医療情報を管理し、家族ともこまめに情報共有している。訪問リハも2週に1回、歯科医による口腔ケアや訪問診療も提供されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師が不在で日々の申し送りを正しく伝えることで医師との連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期との判断後は家族や医者との連携を特に密にし話し合っているが、これでいいのかと不安でもある。	希望があればターミナルの受入も行う方針であり、昨年2件、看取りを行った。提携医も協力的に対応してくれ、夜間や緊急時対応も24時間されている。契約時に方針の説明を行い、重度化の際には改めて医師とも共同して説明を施している。ターミナル期には外部研修や勉強会も行っている。	今後のターミナルの受入の可能性に備えて、職員間で、出来る事、出来ない事の話し合いや、看取りプランの作成、情報共有が行われることに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。		

H25自己・外部評価表(GH和笑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練のみたまに実施。	昨年は消火訓練を消防署と協力して行い、避難訓練は単独で、夜間想定を含めて2回行った。以前、運営推進会議時にもらったアドバイスから外に向けて鳴らされるベルを設置し、訓練時にも知らせるようにしている。スプリンクラーも設置され、水や食料などの備蓄物も3日分が確保される。	非常時の協力を備えて、地域への案内や参加が行われることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声かけをするように注意はしているが。	日頃の言動や行動、態度などは職員同士でも注意しあっている。当事者同士は良くても、第三者が見た時にはどうか、ということに気をつけるようにしており、地域の方からアドバイスを頂くこともある。プライバシーや羞恥心にも配慮し、入浴や排泄時の不用意な露出も避けるようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情観察や問いかけ、声かけにて引き出すよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ不足や人替わりも多く出来ていない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や汚染のない服への更衣等には注意している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今現在は一緒に作ることが困難で食事のみ一緒に楽しんでいる。	食事時にはテレビも消して、職員も同じ食卓について会話を交わしながら、和やかな雰囲気と同じ食事を楽しんでいる。食事は栄養士が管理し、隣接のデイサービスで調理したものが給食されるが、地元でとれたお米、自家製の漬物などは事業所で提供される。配下膳や食器ふきなど手伝えることは手伝ってもらい、おやつ作りを一緒に行うこともある。誕生日には寿司を購入し、食べたいものの要望に応じている。	職員の配置などの関係で、現在はデイサービスからの給食を行っているが、月や週単位でも、入居者と共同した調理の機会などが検討されることにも期待したい。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は皆同量。水分は個々の量だが最低摂取は出来るよう声かけや介助を行っている。		

H25自己・外部評価表(GH和笑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや、一部介助、全介助と一人一人の状態に応じて行っているが時々拒否の方も。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に応じた間隔でのトイレ誘導。日中は布パンツ、夜間は紙パンツパット等の変更も行っている。	入居者それぞれの排泄チェック表があり、状況を把握しながら支援している。紙パンツ、パットの利用があるが、支援により汚れることも少なくなり、早めにサインを読み取ってトイレに誘導することで今では失敗も少ない。夜間もできるだけトイレでの排泄を促し、職員間でも連携をとって排泄の自立支援につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の献立の中で繊維ものを多く用い集団体操や個々の体操のみ。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ていない。入浴中の会話等で楽しい気持ちのいい入浴となるよう努めている。	1.5坪ほどの広さの家庭用ユニットバスで、お湯は溜め流して清潔を保ち、湯温もそれぞれに合わせて調節している。状態によって事業所で順番を決めて、基本的には昼から夕方にかけて入浴する。拒まれた際も最低週3回は入浴してもらっている。職員との大事なコミュニケーションの時間としても活かされ、長時間楽しむ方もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に応じて昼寝の誘導や自ら臥床の見守り等行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期の薬の完全な理解はないと思われるが症状の変化の確認には努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	思いは十分あるが今は出来ていない。		

H25自己・外部評価表(GH和笑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来ていない。	全体での外出行事が年に2回程度あり、その際に外食レクも行っている。気候のよい時期は週2回程度、眼鏡橋や公園など、近隣への散歩も楽しみ、周辺へのドライブに行くことも多い。車いす対応の車もあり同じように外出を行っている。	全体での外出なども行われているが、これからの気候の変化に伴い、日常的な外出機会を増やし、行きたい時に行けるような支援が行われていくことにも期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人所持一人いるが使えるのは外出時のみ。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合や宅配物のお礼のTEL等は行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾る。いつも清潔であるよう汚染等に注意している。	玄関入ってすぐ、手作りの飾りや和風の置物、トルペイントの作品などがあり来客を迎える。家庭的な雰囲気のリビングには6人掛けのテーブルが2つあり、入居者と職員も仲良く一緒に座って会話を楽しんでいた。窓からは山々の緑や昔ながらの風景が広がりゆったりとした時間が流れる。こじんまりとした造りだが天井は高く狭さを感じさせず、程よい広さである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファ設置。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、鏡台、ベット等自宅より持参して頂いている。	各部屋フローリングで廊下から地続きのバリアフリーで、段差なく入れる。エアコン、ドレッサーが備え付きで、ベッドは使い慣れたものを持ち込んでもらい、介護ベッドが必要な時はレンタルで対応する。状態にあわせて家族とも相談しながら家具などは好きな物を持ち込むことも出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差(-)、手すり(+)居室やトイレに名札をつける等行っている。		